

※オンライン配信のみ

第20回日本歯科東洋医学会九州支部講演会

口腔からみるポストコロナの時代～歯科東洋医学が貢献できるもの～

特別講演1 9:00～10:30

量子物理学と BodyTalk

今田 泰

てらすカウンセリングルーム

BodyTalk インストラクター、BodyTalk 上級施術士



特別講演2 11:30～13:00

コロナ禍の中で～患者の不安と歯科東洋医学的対応～

山口 孝二郎

医療法人ハヤの会田中矯正歯科 歯科慢性疾患診療室、

昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門客員教授



九州支部理事講演 10:30～11:30

ポストコロナで広範囲を治療できる原絡治療を
歯科に応用してみよう

小原 浩司

歯科医師、鍼灸師、按摩マッサージ師、

柔道整復師、柔道整復師認定実技審査委員



受講料 歯科医師 8,000 円

パラデンタルスタッフ 1,000 円

学生無料

登録締切 8月16日（期日までの振込を登録とします）

振込の後、marimari39kusa@yahoo.co.jp までメールを送信してください

メールには、お名前、ご住所、お電話番号、お振込金額をご記入ください

振込先 熊本銀行 菊南支店 普通預金口座 3071327

日本歯科東洋医学会 九州支部会計 井上 泰子

整理の都合上、振込は法人名でなく個人名をお願いします

お振込み時の控えをもって領収書に代えさせていただきます。

2021年8月29日（日）9:00～13:00 オンライン配信

メールを送信の前に必ず振込をお済ませ下さい。振込がない場合には、登録の扱いとはなりませんのでご注意ください

問合せ先 九州支部事務局 くさの歯科医院 草野真理子 〒836-0805 福岡県大牟田市通町2丁目12-1

電話 0944-53-0488 FAX 0944-53-5729

メール marimari39kusa@yahoo.co.jp

量子物理学と BodyTalk 今田 泰

1995年オーストラリアのカイロプラクター・鍼灸師であるジョン・ヴェルトハイムによって作られた BodyTalk System。古今東西の様々なセラピーを統合し、肉体領域に限らず、より高い周波数領域である経絡やチャクラ、さらに高波長の感情や記憶、認知などを筋力を使って検査していく高い包括性と、器具を使わない簡便さなどの特長を持つ最新の手技です。

エルヴィン・シュレーディンガーやデヴィッド・ボームといった著名な量子物理学者が、その理論と2000年前のインド哲学の世界観との共通点に気づき、大きく影響を受けたことが知られていますが、その最先端の物理学と古来の哲学の合流点にあるヘルスケアシステム BodyTalk を西洋と東洋の両者の観点からご紹介します。

また口腔治療への応用に関しては BodyTalk のテクニックを診療の一部に取り入れられている九州支部会長の平野尚史先生よりご紹介頂きます。

略歴 中央大学文学部史学科西洋史学専攻卒

2008年より BodyTalk を学び2010年に「てらすカウンセリングルーム」開業

コロナ禍の中で ～患者の不安と歯科東洋医学的対応～ 山口孝二郎

2020年初頭から感染が広まった新型コロナウイルス感染症の対応で、日本全体が過去に経験したことのない対応を迫られる事態となり、オリンピックをはじめ多くのイベントが中止を余儀なくされた。ワクチン接種は始まったが、治療薬がまだ出てきていないこと、外出規制などあり国民は非常に強いストレスに長期間さらされている。

ライフイベントストレスチェックという手法で、配偶者・親族の死・自分の病気やケガの項目を除いてコロナ禍の1年間の生活に関する項目を拾い上げてみると、①家族の健康や行動の大きな変化、②収入の減少、③労働条件の大きな変化、④睡眠習慣の大きな変化、⑤仕事のペースが変わった、⑥住宅環境の大きな変化、⑦職場の人数が減る、⑧社会活動の大きな変化、⑨仕事の予算不足などが挙げられ、これらの項目の点数を加算すると427点となる。このストレスチェックは1年間で経験した項目の合計点数が300点以上だと病気を引き起こす可能性がある段階とされる。つまり日本だけでなく全世界の人々がこのコロナ禍によるストレスで別な病気を引き起こす可能性が高い状況にあるということである。

セリエのストレス学説による身体に生じるストレス反応のステージは、警告反応期→抵抗期→疲弊期である。ストレスが長期間続いた疲弊期では自律神経系の異常、副腎機能異常などが起こりやすくなる。これを歯科領域に照らし合わせると、舌痛症、非定型疼痛、顎関節症、口腔乾燥症、味覚異常などが該当してくる。これらはいずれも難治性であるが、東洋医学的治療が奏効する可能性がある。

コロナ禍の現在からポストコロナの時流のなかで、我々歯科医師はこれらの難治性疾患に対応する方法を準備しておく必要があると考える。今回は、上記のような難治性疾患の歯科東洋医学的対応について、最近の知見も含めてお話させていただく予定である。

ポストコロナで広範囲を治療できる原絡治療を歯科に応用してみよう 小原浩司

ヒトの身体にある12本の正経の中で、口腔を中心に肺経・大腸経・胃経・脾経の4本に注目してみます。症例として、咽頭・喉頭の炎症は太淵（肺経の原穴）と偏歴（大腸経の絡穴）、歯痛・歯肉炎は合谷（大腸経の原穴）と列缺（肺経の絡穴）、舌のこわばりは太白（脾経の原穴）と豊隆（胃経の絡穴）、顔面神経麻痺は衝陽（胃経の原穴）と公孫（脾経の絡穴）をモデルを使い刺鍼してみます。